

と、発言することがより一層難しくなりました。「英語の授業を聞くことなら日本でだって出来る。授業を聞きに留学しに来たわけではない。授業に参加するために来たんだ。」予習をし、授業中席にただぼつんと座っているだけの当初は、そうかなり悩んだものです。そんな思いを、実に授業開始から3週間も味わっていました。

ある日、転機が訪れました。運良くある学生から先生に「この失業率のグラフを見ると、日本は2002年まで少しずつ上がってきているが、それ以降もどんどん上がってきているのか。」という質問が挙がりました。このまま発言しないで座ってはいけない、何とかチャンスを作らねば、と思い、ちょうどその日は予習段階でそれについて調べていたのです。その質問に対し、私は「今はそれよりは少し下がっていて、4%台にある。」と発言することができました。その授業が終わった後、先生に情報をシェアしてくれてありがとうと言われ、授業中に発言することに対する喜びを覚えました。それ以来、そのマクロ経済学の授業では、日本のことについて発言できることが自分の強みだと判断、度々日本の経済に関して発言するようになりました。今学期はまだ始まったばかりですが、先学期の反省を生かし、授業の最初から発言をたくさんして、発言する人という印象を皆に植え付けることで、気軽に授業中に発言できるようにしています。

また、英語のリスニングに慣れたおかげで、授業中の理解も深まってきました。留学当初は先生が何を言っているのかわからず、周りを見て何をすべきかを判断していた私ですが、今学期は先生の言ったことから色々学ぶことが出来るようになりました。先のマクロ経済学の授業では、発言は時々していたものの、教科書以外の話題になると、何を話しているのかわかりませんでした。今学期にとっての economic development の授業では、先生が教科書に書いていないことをよく話すのですが、そこからも学ぶことが出来るようになりました。予習以外から学ぶことが多くなってきたことは、大きな進歩といえると思います。

このように、授業に関して色々といい方向に変わってきましたが、それは日々の予習に対する努力のおかげだと考えます。日本では授業への予習などしたことはありませんでしたが、留学開始から今まで、ここでは毎日欠かさず予習をしています。予習をしないと授業についていけないため当然のことなのですが、reading が遅い私にとって、それは何時間もかかる格闘でもあります。そのために、めがねをかけ、部屋の電気をつけたまま、教科書片手にベッドの上で寝ることもしばしばあります。毎日が日本の大学での試験勉強のような忙しさですが、これこそ私が留学生活で望んでいたことの一つであり、何より自分が学びたいことを学べているので、このような生活に大変満足しています。

3、今後の目標—説得力のある発言を—

私の今後の学習面の目標として、説得力を持った発言をすることが挙げられます。説得力をつけることは私が留学前に私が目標としていたことで、それは国際社会で働くことを希望している私の将来の大きな助けとなることだからです。そのような発言をするためには、英語力の改善はもちろんのこと、Academic skills for study abroad の授業で松本先生に教わったような、要点を的確に伝える話し方やロジカルシンキングを習得する必要があります。勉強を進める傍ら、それらにも本腰を入れて着手していこうと思います。

現段階では、まだ授業中に発言すること自体に満足するに留まっています。残りの期間から考えて、説得力のある発言をすることは難しいとは思いますが、しかし、何とか一度は先生やクラスをうならせるような発言をする、というのが、私の今後の学習面の目標です。

☆☆☆

留学生活も折り返し地点にきて、生活への「慣れ」が良い方向にも悪い方向にも作用していると思います。いい方向に関しては、例えば、英語に慣れてきたことにより、友達との会話も弾み、留学生活を楽しめるようになってきたことです。逆に悪い方向としては、新しいことにチャレンジしようとする姿勢が欠如してきてしまったことです。留学当初は色々なこととにかく飛び込んでいましたが、最近はどうも今の状態に安住してしまっているような気がします。せっかく一年という貴重な時間を投資しているわけですから、以前のように再び積極的に何事にもチャレンジしてみる姿勢を取り戻すことが、これからの生活面の課題だと思えます。新年にもなり、ここでの生活も終わりが見えてきてしまいました。常に私のこの留学での大きな目標である、「視野を広げる、英語力をつける、専門分野(開発経済学)の知識をつける」という三つを念頭において、戦略的に生活していこうと思います。



服部 祐也

はっとり ゆうや

早稲田大学政治経済学部3年

California Polytechnic State University
San Luis Obispo 校 留学中

編集長から一言

留学先の大学での学業への適応振りを、具体的な慣れを上げての、服部君の報告です。

服部君は、ただ単に自分の適応による変化に注目するのではなく、日本とアメリカの大学の違いを頭に置きながら、冷静に留学先の大学での授業のやり方を観察しています。

このレポートは、留学生活が半分経った頃に書かれたものです。その間に、授業の内容も理解できるようになり、アメリカの大学の特徴である授業への積極的な参加も出来るようになりました。